静私幼だより

- 夏の研修報告
- 子育てフェア（富士・焼津）
- 公開保育研修報告
- 子育て支援キャラバン
- もの想い（中央幼稚園・東光幼稚園）
- 特集/ごっこ遊び・劇あそびのすすめ（その3）長田安司
- コミュニティ（保育の窓）
- 街ぶらり（藤枝市・島田市）
- 健康随想/栗山　恵

こどもが
まんなか
PROJECT
只今全国展開中

NO.178
2016⑫
Winter

夏の研修報告

教育研究講座（4～7年目）

梅雨にもどったようなどんよりした曇り日で気温も低い7月26日、グランシップで4～7年目教師の教育研究講座が開催され、県下各幼稚園・子ども園から198名の参加がありました。

田中邦昌副理事長・大貫ななみ研修副委員長の挨拶・趣旨説明、篠宮けい子研修委員のオリエンテーションで講座の開会となりました。

午前の講義【子どもの理解と記録～子どもの主体性を育む保育～】

聖隷クリストファー大学教授・太田雅子先生

先生は自分の幼稚園教諭時代の失敗―遊んだつもりだったのに、子どもから「先生、遊んでいい？」と言われ、自分は指示や教え（Teaching）ばかりで、子どもはそこから何を学んでいるのか（Learning）を考えていなかったことに気付かされた経験を話し、10問のQ&Workで、「次どうしますか・どのような環境を用意しますか・どのように応答しますか」等の質問と子どもの具体的な質問・疑問を題示し、先生方が自分なりの考えをまとめ発表しました。そこから導びかれた結論は、「子どもの内面に起きていることに目を向ける・5W1Hの質問を心がける・ごっこ遊びや保育の記録を残す・できるできないの尺度で判断しない」でした。

午後の講義【保育の過程を支える環境の構成】

青山学院大学教授・小林紀子先生。

IT化・人工知能による生活の変化とともに子どもの育ちが危惧される―基本的生活習慣欠如・コミュニケーション力不足・自制心や規範意識不足・運動能力低下・学校生活不適応・学びへの関心や意欲低下―これからは「人を人として豊かに育てる」が重要。幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であり、教えこみでなく楽しく遊びながらの保育を大切にしたい。

最後は草分由子研修副委員長の挨拶で閉講。

初任者（宿泊）研修

8月22日・23日に、掛川市のつま恋で私立幼稚園初任者研修が行われました。

当日は県内の私立幼稚園・こども園に本年度採用された教員217名が参加、2日間にわたり「素晴らしい保育者をめざして」というテーマで、幼児教育に携わる初任者の心構えや、実技を含む研修が行われました。

初日は、「2学期に向けて」というテーマの講義が、平山許江先生（元文京学院大学特任教授）よりありました。そのあとの山岸弘子先生（NHK学園専任講師）の「おさえておきたい基本のマナー」講義では、言葉遣いやマナーなど、社会人として身につけなければならない内容を学びました。また「いのち育むの活用について」の研修では、大貫ななみ先生（静岡県私立幼稚園振興協会研修副委員長）から、幼稚園教諭1年目としての悩みなどを、先輩教諭の方々も経験したお話の中から、どう乗り越えてゆけばよいかアドバイスを頂ける機会になりました。

初日の夕方からは、細田淳子先生（東京家政大学教授）による「子どもが育つ表現あそび～うたや楽器を通して～」の講義や、お互いの自己紹介「実

技交換会」の時間を通して、2学期からの保育ですぐに実践できる内容の実技研修が行われました。お互いの園での実践例をもとに、各先生方がこの数か月で身につけた知識や技能を他の先生方に発表する良い機会にもなりました。

2日目は、日本赤十字社静岡県支部の皆さんによる、「幼児に起こる身近なけがと対処法」の実技研修では、日々の保育で何に気を付ければよいか学習し、もし万が一子どもがけがをしてしまった場合の対処法を、各グループに分かれ実践しました。

そして最後の村田夕紀先生（四天王寺大学短期大学部教授）の講義は、参加者全員が画用紙を使っての製作活動を行いながらの実技研修でした。

参加した先生方たちがお互いを高めあうことができ、そしてさらに質の高い幼児教育が実践できるような密度の濃い2日間の研修になりました。

これからも研究と修養に努め、素晴らしい保育者になっていってほしいと思います。

乳幼児研修

8月1日に私学会館大会議室にて乳幼児教育研修会が開催されました。

講師である元立教女学院短期大学教授今井和子先生は、ストレスが多く自己肯定感のない現代の子ども達の現状を憂い、自己肯定感を育む保育を愛着形成を中心に、ビデオ映像を交えながら話されました。（愛着とは「親、あるいはそれに代わる重要な人との間に繰り返し行われる日常的な世話を通して子どもの中に形成される心理的な絆」であり「子どもが不安を感じたり危機的状況に置かれたとき、特定の人との近接を求めるという形で自己の生存と安全を確保しようとする性向、アタッチメントという訳語」）

乳児は適切な世話やおはしゃぎ遊び等によって、人を信頼し信じる気持ちが育っていきます。

次に共同注視、指さし等を通して、人と楽しさや喜びを分かち合う経験が豊かになり、人との交わりを楽しいと思えるようになります。

そして、自我が芽生え、自立と依存、人とのかかわりのなかで様々な葛藤が生まれます。心の葛藤を肯定的にみて理解してもらえる、折り合いを付けてもらえる、支えてもらえる、その人を心の基地としてつらいことも乗り越えられるようになります。

乳幼児の行動の意味、心の動きを何故と問うて子どもの魂に近づき、心の理由を言葉にして表す。目に見えない真実や核心を捉えることが保育者の役割です。

最後に、自分のやりたいことを夢中になって遊ぶことが自分らしさをつかみ、自己肯定感を育んでいくとお話されて研修は終了しました。

おめでとうございます

平成28年秋の叙勲の受賞者をご紹介いたします。

●瑞宝双光章　松永文隆

学校法人桃花学園理事長
認定こども園ももはな園長

子育てフェア in 富士

富士地区子育てフェアが10月15日土曜日に親子約5,000名の参加を得て富士山こどもの国で盛大に開催されました。

町の広場では、ブロック積み遊びの『たくさんつめるかな?』、ボールを的に入れる『それいけポン、ポン、ポーン』、クイズ勝ち抜けゲーム『○×どっちだ?』、ジャンプあそび『けんけんぱ』、出合ったぬいぐるみの動物とジャンケンをしてポイントごとにシールラリーカードにシールを貼ってもらい楽しんで参加していました。

見晴らし塚では町の広場にいる大きな動物のぬいぐるみを紙筒の望遠鏡で探す『どんな動物が見えるかな』の5つのブースを親子で楽しそうに参加していました。

草原の国では、溶岩の遊び場で通り道に隠れている動物を見つける『動物さんを見つけよう』・草原の迷宮では、隠れた王様を探す『王様を探そう』のブースは終了時間になっても来客者が多く賑わっていました。

この日は快晴で、この時期としては暖かく、一般の入場者も親子連れで多く訪れていましたので、シールカードを渡して一緒に楽しんでいただきました。

子育てフェア in 焼津

10月28日(金)、焼津市私立幼稚園協会主催による焼津地区子育てフェア「チャイルドチャレンジ2016」が、焼津市総合体育館のメインアリーナとサブアリーナで開催されました。

当日は雨模様にも関わらず、園児、未就園児と保護者の約1,600人が参加しての大盛況でした。

子育てフェアは親子の絆を深め、一緒に遊び体験を楽しみ、子育ての喜びを感じてもらい、私立幼稚園の良さをアピールすることを目的として、焼津市私立幼稚園協会12カ園が協力して企画しました。

子育てフェア会場には制作・運動・表現をテーマに3つに別れ、各テーマに遊びコーナーを2コーナーの全6コーナーを設けました。

子ども達はコーナーをひとつ体験(チャレンジ)するごとに首から下げたペンダントにシールやハンコをもらい、全6コーナーの体験が終わると、ご褒美がもらえるのです。

制作のテーマでは、牛乳パックを使ってモコモコおばけを作る「モコモコモコモコ…何ができるかな?」コーナー、牛乳パックを使ってパッチンカエルを作る「ピョンピョンGO!」コーナーでした。家族と一緒に物作りに挑戦し、出来上がったモコモコおばけやパッチンカエルで遊ぶ家族の姿はとても楽しそうでした。

表現のテーマはペープサートや音楽遊びの「うたって!おどって!のぞいてみよう」コーナー、先生たちの楽器演奏と音楽遊びの「ミュージックステージ」コーナーでした。みんなで一緒に歌ったり、踊ったりして楽しみました。

運動のテーマは障害物運動の「くるくるジャンプでGO!」コーナー、輪投げ遊びの「めざせ、わなげチャンピオン!」のコーナーで、子ども達は先生の手作りゲームに夢中になっていました。

全ての体験(チャレンジ)を終えた子ども達は笑顔に満ち溢れ、ご褒美を手にして喜んでいました。

このフェアで子どもと一緒に遊ぶ父親の姿も多くみられました。「子どもと一緒に物を作って遊ぶことが、こんなに楽しいものだとは思わなかった。子どもと一緒に何かを作って遊ぶ機会を増やそうと思った」との声が聞かれるなど、幼児教育の重要性や私立幼稚園の魅力を積極的に発信できたと思います。

公開保育研修報告

子ども・子育て支援新制度が始まり、幼児教育無償化も進められ、公教育を担う学校としての公的役割も高まる中、教育・保育の質の向上が、より求められてきています。その質の向上のために効果的に実施していきたいことが学校評価です。私立幼稚園における学校評価は、各々の園の良さを大切にしながら、課題を解決し、保育の質が向上していくことを目的としています。その目的達成のために全日本私立幼稚園幼児教育研究機構で推進しているものが〝公開保育を活用した保育の質向上の取り組み〟です。公開保育を実施し、公開保育コーディネーターや参加者の外部の視点を導入することによって、自園の優れた取組や課題解決の方向性などを明らかにしつつ保育のプロセスの質の向上を目指すものです。幼児教育研究機構において、3年前から公開保育コーディネーターの養成講座が始まり、県内でも現在6人が認定され、今後も養成を続けていく予定です。

公開保育実施園については、今年度は東・中・西部各1ヵ園ずつ実施し、来年度は2ヵ園ずつ実施できたらと考えています。

東部

東部地区公開保育は、11月17日に富士市の認定こども園・曙幼稚園で開催されました。晴天の秋空に浮かぶまだ控え目な雪化粧の富士山が見下ろす中、参加36名の先生方と授業者の先生方が一体となって「保育の質の向上」を目差した一日でした。

オリエンテーションでは、研修委員長の相田早苗先生から評価の重要性と補助金という費用に対する効果の裏付けである質の向上が求められる旨の話があり、コーディネーター（まとめ役）の石川美和子先生からは、事前訪問での園長・先生方との話し合いで、園の良さと課題を見つけ、公開保育に向けた準備や参観者に提示する「問い」を決定してきた過程の説明がありました。また配られた付箋の使用方法や目的が語られ、公開保育は質を高める手段であり、園の良さや課題を見つける場であり、参観者も授業者の協力者である旨が熱く語られました。

公開保育では、園で20年続く「異年齢との交流」をテーマに5コーナーが設けられ、各教室入口には参観者の視点となる「問い」が掲示され、目的を持って見学することができました。1時間30分の保育参観の後に各教室の「問い」は全体会場に集められ、参観者は付箋に各自の意見・感想を書いて、それぞれの「問い」に貼っていきました。昼食後は各教室で分科会が開かれ、ファシリテーター（司会進行役）の先生を中心に、自己紹介に続いて付箋に書かれた内容について熱心な話し合いが行われました。笑いがありなごやかな雰囲気の中、質の向上に向けた建設的な意見・アイデアが出され有意義な時間となっていました。最後に全体会場に集合し、各分科会からの報告が行われました。

公開園は自園の良さを再認識でき、ほしい情報を手に入れることもでき、参観者も単なるお客さんにとどまらずに共に考える場となり、生きた研修の場となっていました。

中部

10月7日（金）に静岡市駿河区の大里東幼稚園にて公開保育が行われました。趣旨説明が行われ、公開保育コーディネーターより、公開保育までの大里東幼稚園での取り組みについて説明がされました。

事前に（ステップ1）として7月22日にコーディネーターによるヒアリングが行われ、園長・主任が園の現状について説明し、（ステップ2）として田の字ワークにより園の良さや課題を抽出した中で、「子どもの主体性を育む保育」とのキーワードがあがりました。「園内研修（8月下旬～9月上旬）」に「主体的だと思う場面」の写真を持ち寄り話し合い、主体性についてのイメージの共有をし、付箋を持ち寄り「主体性とは」について意見を出し合い『やりたい、やってみたいという→意欲、次に没頭、

目的→試行錯誤、そして更なる意欲へ、の道筋があるのでは』という仮説と共通理解が生まれました。（ステップ3）としてコーディネーターの支援のもと「問い」づくりを行い、公開保育をむかえました。

参観者は参観する学年が決まっており、「問い」について重点的に保育を見るようにしました。保育終了後に、「問い」について付箋に書き出し、午後の分科会にて、年少組、年中組A・B、年長組A・Bの5グループに別れ、ファシリテーターのもと話し合いが行われました。付箋を出しながら、『こんな場面で子どもが主体的に取り組む姿がある』など各参加者が意見を出し合い、出した意見をどのような内容の事が多いのかなど最終的にまとめ、保育と「問い」についての話し合いを進めていきました。最後に各グループから話し合いについての発表を行いました。

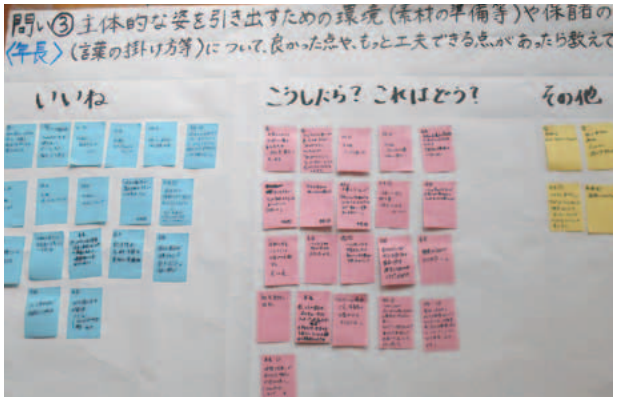
参観者も保育を行う園の「問い」に対して考えながら保育を見て答えることで、一緒に問題解決に取り組むことができ、公開保育を行った園も参観者も共に充実した研修会が行われていました。

西部

9月9日西部地区の蒲幼稚園において公開保育研修が行われました。

今回の公開保育についてコーディネーターである坂本先生にお話を伺ったところ、事前に3回程公開園を訪問し、園長・主任の先生方の園に対する思いや課題についてヒアリングを行い、さらに園の先生方と「田の字方式」と呼ばれるワークを行い、自園の良さや課題、こうありたいという姿勢について話し合いを行ったそうです。それをもとに、公開保育当日に参加する先生方に、どんなポイントについてアドバイスや意見をして欲しいのかという「問い」というものを公開園の先生方が作り、参加される先生方がその「問い」を意識しながら保育を観る事によって、より実際的なアドバイスや意見を述べることができるような公開保育研修になっていました。

実際に今回の公開保育研修を見ると、当日参加した先生方は保育を参観しながら、「問い」に対する答えを3色の付箋へ記入をしていました。水色は「問い」に対して良かったこと、ピンク色はこうした方が良かったかもなどの意見やアドバイス、黄色には「問い」以外に感じたこと・気になったことと決めてありました。保育終了後に付箋を使って公開側の先生の反省や「問い」に対しての意見交換会が行われました。そこでは、参加側の先生方が付箋に書かれている内容に対しての説明や補足などを話し、最終的には1つの「問い」に対して3色の付箋がたくさん貼られる形になりました。



今回の公開保育研修は「問い」というものを設定することによって、公開側と参加側の先生方の意見交換もスムーズにいき、尚且つ様々な方向からアドバイスを受けられる為、課題や修正点も明確になり、目的である保育の質の向上につながると感じました。

子育て支援キャラバン事業

教育講演会

子育てで生まれる絆
～幼児が親心を育て社会に絆が生まれる～

『こどもが　まんなかPROJECT』は〝社会全体で子どものことを考えていこう〟、〝こどもを中心に考えることのできる社会づくりに向かって、皆で考え、議論していこう〟と、全日本私立幼稚園連合会が平成21年度より全国一斉にスタートさせたキャンペーンです。本県私立幼稚園振興協会でもこの趣旨に賛同し、静岡県版PROJECTとして『おやこんぼ』活動を推進してきました。沼津地区で産声をあげた『おやこんぼ』が今、県下各地でさまざまな花を咲かせ始めています。

親子とCOMBO（集合体・組み合わせ）が一体となった『おやこんぼ』は、こども・親・教師・地域の全ての人々が主役です。こどもを中心に家族の絆、社会のつながりを深めたいと願うこのキャンペーン。このたびの県下一斉キャラバン講演もこの思いを今一度皆さんと共有することを願っての活動です。皆さん一人一人が声をあげ、それぞれの思いや形で行動することを通して積極的に参加し、是非この輪を静岡県下、そして全国に拡げてまいりましょう。

前理事長　相田　芳久

これらの願いをこめて、静岡県私立幼稚園振興協会主催、はごろも教育研究奨励会協賛により、平成28年10月13日から11月11日までの期間に、東部3会場（富士市・裾野市・沼津市）、中部2会場（焼津市・静岡市）、西部2会場（浜松市・磐田市）の7会場で松居和氏による『教育講演会』を開催しました。

会場には園児の保護者、県内公私立幼稚園・認定こども園教職員、保育所職員、市町行政担当者など約2，335名の参加者が集い、おやこんぼプロジェクト委員による趣旨説明の後、『子育てで生まれる絆～幼児が親心を育て　社会に絆が生まれる～』の演題で松居和先生の楽しく、そして涙する講演に聞き入っていました。

講演のほんの一部をご紹介させていただきます。

「赤ん坊のちょっとした仕草で、夫婦やまわりの人の心がひとつになりました。（中略）無意識に笑っただけで、小さな命は人々をいい人間にし、心をひとつにする。その微笑みが、人間社会の原点です。」

「子どもたちに信じてもらうことで、親たちは育つ。子どもたちに愛され、許され、救われた親たちが親心の絆を育み、絆で一緒に子どもたちを守る。」

「親たちが一人ずつ、幼児という神様仏様に〝信じてもらえる歓び〟を肌でしっかり感じてほしいのです。お互いにいい人間だということを確認するために〝子育て〟があるのです。」

松居和先生のHPには様々な原稿集が納められています。教育講演会に参加できなかった皆様は、ぜひご一読ください。

http://kazumatsui.com/

子どもの成長

中央幼稚園（菊川市）
父母の会会長　山本 宗幸

今年の春、双子が誕生し、我が家は6人家族となりました。

先日、年少の次女のツメを切っていたときのことです。

「毎日誰かしらこうしている気がするなぁ」と、こぼしたら、小学校へ上がったばかりの長女がふと

「これから自分で切りたい」

と言い出しました。

確かに考えてみれば、もうすんなり出来るんじゃないかとそのときに初めて思いました。

娘のこの発言が、ただの好奇心からなのか、それとも本当はまだまだ甘えたいところを頑張って言ってみたのか…。

これまで当然のように膝へ座らせていたけれど、娘のこの言葉で、こちらが子どもの成長に追いついていなかったことに気がつきました。

慣れない学校生活のサポートとして親の出番もたくさん増えた上に、双子の育児。行事やスケジュールの管理。

一日のことをその日のうちに片付けてしまうことで精一杯の日々の中、私たち夫婦は、ある種戦友のような（笑）ものに近いと感じます。

そんな慌ただしさをよそに子ども達は、確実に出来ることが増え、様々なことにチャレンジをし、いろいろな表情を見せてくれています。

そして、戦友だからこそ、そんな嬉しい瞬間を共有できることもまた、明日からの私たちの活力になっているように思います。

父母の会の会長を勤めさせていただくようになって二年。園でのたくましいパワーあふれる子ども達をそばで見守り応援出来ること、大変幸せに思います。

数年後には双子も同じ園へ通うことになるので、まだまだ幼稚園生活は親にとっても長いですが、ひとつひとつ子ども達の成長を楽しみたいと思っています。

どうぞ今後共よろしくお願いいたします。

子育てが楽になった魔法の言葉

蒲原東光幼稚園
ＰＴＡ会長　大石 裕子

我が家には5歳（年長）と3歳（年少）の二人の息子がいます。長男が幼稚園に入る前は、子ども達と一日中、常に一緒の日々でした。イヤイヤ期と赤ちゃん返り中の長男と、生後数ヶ月の次男。二人を相手にしていると自分の時間などあろうはずもなく、毎日が子どもとの闘いであり、また自分自身との闘いでもありました。

そんな暮らしに疲れ果てていたある日、いつものように二人の子どもを連れてスーパーへ買い物に出かけた時のことです。私たちの近くを歩いていた年配のご婦人が、ふいに足を止めたかと思うと、子ども達に目を落として、にっこりと微笑みました。そして顔に笑みをたたえたまま私に話しかけてきたのです。

「お母さんは大変でしょう？でも子どもを持ったら、みんなが通る道ですからね。すぐに『あの頃は大変だった』って笑えますよ。私も息子を三人育てたの。すごく大変だったけど、今となっては懐かしいわ。忙しい時が一番いい時なのよ。頑張ってね」

聞き終わるなり、私は肩からすっと荷が下りたような気がして、とても救われたように思いました。今の子育ては今しかできないのだと、心のゆとりができたように感じました。その言葉は私にとって、子育てが楽になる魔法の言葉になりました。

あれから三年。長男は私の後ろに隠れてしまうような消極的な子でしたが、幼稚園での生活の中で少しずつ自発的になり、お兄ちゃんらしくなりました。次男は今年の春から満3歳児で入園し、一度も泣くことなく元気に楽しく登園しています。まだ二人とも手はかかりますが、あの三年前のことを思えば、子育ては幾分か楽になったと思います。これからも子育てに悩んだ時は、あの魔法の言葉を思い出し、今しかできない子育てを楽しみながら、子どもと共に成長していきたいと思います。

特集3

ごっこ遊び 劇あそびのすすめ

認知・非認知スキルを高める教育活動としての「ごっこ遊び・劇あそび」

社会福祉法人同志舎
共励保育園理事長
和光大学心理教育学科
非常勤講師
長田 安司

長時間保育をはじめとする労働対策中心の保育施策が日本の活力を失っていく構図「保育園のパラドックス（逆説）」を新聞紙上で発表。2013年「便利な保育園が奪う本当はもっと大切なもの」を上梓。誤った国の保育施策を厳しく指摘した。
2013年BSフジ・プライムニュース「待機児童ゼロへ急改善　市長が語る横浜方式」に出演。「待機児童を解消したところで、問題が解決されるのか？」と疑問を呈し、子供の視点からの発言で話題となる。
毎年2月に開催される保育展では、遊びを通して学ぶ「総合保育」を公開。0歳から5歳までの連続した子供の発達を保障する保育実践は保育関係者に高い評価を得ている。

カリキュラムはいつ組むか

卒園式が終わると、共励保育園ではその年の反省と次年度の準備にかかります。3月の第1週には次年度の担任発表がされますので、保育士たちは担当が予定されている年齢の総合保育や物語を考えていきます。新しい物語を創っても構いませんし、過去に取り組んだ250ある総合保育作品の中から選んでリメイクしても構いません。ただし、リメイクの場合は過去の作品に検討を加え、活動を深めることが条件となります。

春の合宿研修会で、1年間の総合保育のストーリーと活動内容をカリキュラムに組み込みますが、2ヶ月続くごっこ遊びの活動についてもストーリーを組んでいきます。秋の合宿研究会では、春からの活動をふり返り、どんな遊びを取り入れることができるかを検討し、ごっこ遊びでのストーリーを確定させていきます。

その年度の総合保育は「りんりん♪ごきげんレストラン・キッチントマト」という題で、レストランを開業するキャラクターのルッコラさんと、2歳児の子供たちのやりとりで展開されていきます。

以下は、春、秋に検討され完成されたストーリーで、子供たちが実際に楽しんだごっこ遊びです。

ごっこ遊び「大きな卵探しの旅」（2歳児の活動）

場面1

子供たちは、ルッコラさんから卵を買ってきて欲しいとお使いを頼まれ、ニワトリさんの家までの地図を渡されます。子供たちは地図を見ながらニワトリさんのお家を探し始めます。

歌いながら歩いて行くとリンゴの木の所でウサギさんに出会い、ウサギさんは子供たちに何をしているかを尋ねます。子供たちはニワトリさんの家に卵をもらいに行くといい、ウサギさんに道を教えて欲しいと頼みます。ウサギさんは、教えてあげてもいいが、今退屈なので一緒に遊んで欲しいと子供たちに頼みます。そこで、子供たちはウサギさんと「むっくりくまさん」や「天狗のかくれみの」などの歌遊びを楽しみます。一緒に遊べて嬉しかったウサギさんは子供たちにリンゴの木からリンゴを採ってくれ、次に進む道を教えてくれます。

※ごっこ遊びが繰り返されるうちに、子供たちは子供たちだけで遊びを進めるようになり、先導をしていく保育士の役割は必要なくなってしまいました。

場面2

次の道に進んだ子供たちは、相撲の修行をしているクマさんに出会います。そこでクマさんにニワトリさんの家までの道を教えて欲しいと頼みます。ところ

がクマさんは、相撲で自分に勝てたら教えてあげてもいい、子供たちにどれくらいの力があるか見たいというのです。そこで、子供たちは子供たち同士で相撲をしてみせてあげ、最後はクマさんと子供たち全員とでお相撲対決をし、めでたくクマさんに勝利し、次へ進む道を教えてもらいます。

※この場面では、毎回違う動物が登場したり、お相撲で負けて道が通れず、引き返したこともありました。

場面3

落ちないように一本橋を渡ると、車のエンジンの音やクラクションの音（音効で表現）が鳴り響く大通りに出ます。急ブレーキの音に驚いた子供たちは、車にひかれないように集まります。疲れた子供たちはタクシーを呼ぶことにしました。大きな声で「タクシー！」と呼ぶと、大道具の陰に隠れて子供たちの様子を見ていたお父さん、お母さんたちがハンドルを持って現れます。子供たちは親のタクシーに乗り（オンブされる）、音楽に合わせて1／クネクネ道　2／登り道　3／踏切　4／高速道路などを走ります。

※突然現れたお父さんやお母さんに、子供たちは目を丸くして驚き、オンブでのタクシー遊びに キャッキャッ”と声を上げ大喜びでした。お父さんやお母さんも幸せそうでした。

場面4

タクシーを降り進んでいくと、突然黒雲が現れ、雷が鳴り、激しい雨（音効で表現）が降り始めます。子供たちは四つん這いになって親のお腹の中に隠れ、黒雲が通り過ぎるのを待ちます。雨が止み黒雲がなくなると、そこにはニワトリさんの家へ向かうトンネルが現れ、トンネルをくぐるとニワトリさんの家が見えてきます。

場面5

ニワトリさんの家に着くと、子供たちはニワトリさんを呼び、大きな卵をもらいに来たことを伝えるのですが、ニワトリさんは歳をとってしまったので、よく間違えるようになり、ときどき卵ではないものを産んでしまいます。

子供たちはニワトリさんの屋根から落ちてくる色々なものの中から、大きな卵だけを親子で協力しながら網で受け止めます。最後に、子供たち全員が大きな卵を受け止めることができ、ルッコラさんから依頼されたお使いは達成されます。

※ニワトリさんはなかなか卵をくれず、長靴やぬいぐるみ、ボールなどが転がり落ちてきます。子供たちは「ちがうよ！ちがうよ！」といいながら、困ったり、笑ったり、大喜びでした。

物語を理解し、イメージの共有することの大切さ

ごっこ遊びが楽しいものになるかどうかは、物語を理解し、みんなでその物語を共有することができるかどうかにかかっています。同じイメージをもつことができると、子供たち同士や保育士が扮するキャラクターとのやり取りも豊かになります。

そこで、保育士はこの物語の大筋を紙芝居や手作り絵本にして、子供たちにお話しがどのように展開するかを伝えます。また、今回のように地図を利用することもあります。その地図には、ニワトリさんの家へ行くまでの道順が描いてあり、途中のウサギさんの家、クマさんの家、くねくね道、高速道路、トンネルなどが描かれています。地図にはごっこ遊びで引き起こされる出来事が順に描かれているので、自然にストーリー展開を知らせていくことができます。

ごっこ遊びは、子供たちの日常を豊かな体験で満たしてくれます。物語を理解し、予想したりイメージする力を育て、語彙を豊富にし、言葉のやり取りを楽しむことができるような体験を与えてくれます。とりわけ、みんなですることの楽しさは、人を信じ、自分を信じ、これから楽しい人生が待っていることを期待させてくれます。主体性が育つことはいうまでもありません。

お知らせ

毎年、共励保育園の保育活動は、保育展として公開されています。今年度は平成29年2月19日(日)です。保育展では、総合保育として組まれた一年間の保育が、実際に活動してきた内容として展示されます。加えて、子供たちが保育展の場で実際に遊ぶ姿や親子の楽しそうな様子も見られるでしょう。

今年度は、ユーストリーム（動画共有サービス）でのライブ放送も計画されています。是非、ご覧ください。

幼稚園教諭となり半年が過ぎた今

沼津学園第一幼稚園　山川千尋

私は小学生の時から子どもと関わる仕事をしたいと思っていました。そして、その夢が叶い幼稚園教諭になって約半年が経ちました。私のクラスは半分以上が男の子で全30人を先輩の先生と2人で見ています。とても賑やかなクラスなので大変なこともありますが、とても楽しく保育しています。

半年がたち幼稚園教諭になって思ったことが2つあります。1つ目は子どもとの関わり方についてです。先生という立場になって褒めることと注意することの大切さを知りました。4、5月の私は子どもに注意するとき、『だめ』『悪いこと』と言うだけで何がいけないのか、どうして悪いことなのかと言うことを伝えられていませんでした。「それでは子どもはただ注意されて嫌な思いをするだけだよ」と一緒に組んでいる先生に教えていただき、そこからいけない理由を子どもに伝えることを心がけるようにしました。まだまだ伝え方に悪戦苦闘していますが、先輩方を見て日々学んでいます。

2つ目は日々の活動についてです。少しずつ朝の会や主活動などの説明をさせてもらえるようになり、子どもの前に立って話すことが増えました。その中でも製作の説明の難しさを感じました。私は伝えることに精一杯で導入や子どもとの掛け合いが全くできていませんでした。先輩の先生の説明の仕方は、身振り、動作、声など体全体を使って子ども達に伝えており、話を聞いている子ども達も面白そうに笑いながら見て聞いていました。私もすぐにはできないと思いますが、先生方を見て学び、たくさん経験を積んで少しでも子ども達が『楽しい』『面白い』と思ってもらえるような伝え方ができるように頑張りたいと思います。

半年でたくさんの課題を見つけることができましたし、先生というやりがいも感じることができました。これからも子ども達と笑顔で楽しい園生活を送りたいと思っているので、笑顔を忘れず子どもにとって頼れる先生でいられるように頑張りたいと思います。

幼稚園教諭になって…

ずだじこども園　影山澄香

幼稚園教諭になって日々の中で感じることは、子ども達の素直で純粋な心に気付くということです。散歩に出かけた時や園庭で遊んでいる時に、小さな花を見つけて「かわいいね」「キレイだね」という言葉がスッと出たり、生き物を見つけて無邪気に喜ぶ。そのような可愛い姿を見ると、心の温まる豊かな気持ちに気付き、子ども達と過ごす中で素直な自分を見つけることが出来ます。

また、この仕事は行事などのイベントを多く経験することが出来ます。毎日の忙しい保育の中でたくさんの体験をしたり学んだり、時には子ども達と一緒に行事に向かって一生懸命に練習。思い切り力を出し切ることが出来たなら共に喜び、悲しい時には一緒に泣いて、嬉しい時や楽しい時にはとびきりの笑顔で笑い合う。子ども達と共に行事を経験していく中で、毎日がとても新鮮です。

社会の潤滑油、人と人をつなぐ言葉である「ごめんね」や「ありがとう」。大切な言葉とは分かっていながらも、大人になるにつれて忘れかけてしまう言葉です。子ども達と日々関わる中で、言葉として発しなければ伝わらないと思い、自分が発する言葉が穏やかで優しいものへと変化していくのが分かります。また、穏やかな言葉を使うことで自分自身に余裕が生まれて、心が広くなっていくように思うのです。

子ども達が、家庭を出て初めて入る社会である幼稚園。この場で精神的にも大きく成長をしていきます。行事や活動を通して学ぶだけでなく、友達と話したり、遊んだりすることで毎日確実に成長していくのです。子ども達と共に成長していくことが出来るということは、他ではなかなか経験出来ないのではないかと思います。やりがいを感じて働くことが出来ている今、私はとても幸福を感じています。

子どもが私にくれたもの

こばと幼稚園　増田 紗登美

「あれ？私のクラスの子どもは受け身の子が多いな」と気が付いたのは担任になって2年目のことでした。「隣のクラスの子は想像力が豊かで伸びのびしているのにどうしてだろう」と考え、先輩の先生方から助言をいただき、答えが見つかりました。それまで私は「子どもに教える＝保育者が先回りして失敗しないように援助すること」だと思っていましたが、子どもと生活を送るうちに、子どもに教えるということは私自身も一緒になって学ぶことだと気づきました。

それからの保育は子どもの声に耳を傾け、子どもが「やってみたい」と思った時に必要な支援ができるようになりました。私自身、運動遊びが好きなことを活かし、戸外で思い切り遊び、みんなで遊びを作り出していくことにより、子どもとの距離が縮まることも実感しました。「先生、今日も○○して遊ぼう！」この言葉が子どもから出た時には心の中で「やったー」とガッツポーズをしています。また、苦手な絵画制作においては、試作の段階で予想していた反応や行動と、実践での子どもの反応や行動に違いがあると思いました。私が考えていた導入よりも、子ども達の発言を拾って進める方が、子ども達に伝わりやすく気持ちが盛り上がり楽しく活動ができます。どんな場面を見ても保育の中心は子どもであり、私に笑顔をくれるのも、気づきをくれるのも、あたたかい心をくれるのも…すべてが子どもであるのだと思います。

今年で幼稚園の先生になり7年目を迎え、年少の担任をさせていただいています。明朗活発な子ども達で、自分の思いを発言できる子も多く、元気いっぱいの子ども達に囲まれて幸せな幼稚園生活を送っています。私にとって幼稚園教諭という職業は、責任があるからこそ得るものも多い自慢の職業だと思っています。

子ども達との出会いに感謝し、園の教育目標である「明るく素直な子」が育つよう、保育の質を日々高め、これからも大好きな子ども達と共にパワーアップしていきます。

さぁ、今日は「どんな遊びに誘ってもらえるのかな」「どんなエピソードがあるのだろう」ワクワクな気持ちでいっぱいです。

幼稚園教諭のこれまでを振り返って

すすき幼稚園　両角 愛美

平成10年4月、幼稚園の新しい園舎とともにピッカピカの先生1年生になりました。ただただ幼稚園の先生になりたくて嬉しかったことを覚えています。1年目は年少28人のクラスを担任しました。とても可愛い子ども達でしたが、初めてお母さんから離れての園生活に泣いたり、私にしがみついて離れなかったり、平気な子もいたりで、ほんわかしていたイメージと違う…。私も泣きたくなってしまいましたが、先輩のお力を借りながら、日々子ども達と過ごす中で信頼関係が出来、落ち着いていきました。それから数年、年少・年長を担任し結婚をし、年少・年中、2度の出産・復帰…と、気付けば人生の半分近くこの仕事を続けています。まっさらな子ども達は、こちらの思いを真っ直ぐな気持ちで返してきます。時にはこちらの思う以上のものが返ってきます。そんなところに魅力を感じ、今日までやってこられたのだと思います。

楽しいこともたくさんありましたが、失敗したこともつらかった事もたくさんありました。しかし先輩に教えて頂いたり、子ども達と接する中でうまくいく方法を見つけられたり、子ども達に教えてもらう事もたくさんあります。また、自身が母親になったことは子ども達への気付きとこれまでの保育にプラスになっていると思います。

今年度は年少30人のクラスの担任をしております。年少さんですが、頑張り屋の子が多く、園で取り組んだことに対して、家で練習をしてきたり、「先生、みてて よ～」と何度も見せにきたりします。うまくいかない子には言葉がけをしますが、それでもうまくいかない時には、少し言葉を変えると出来てしまうことがあります。昨日まで出来なかった事が出来るようになり、褒められ自信に満ちあふれた顔を見ると、言葉がけの大切さと子ども達の持っている力に感動する毎日です。

年数を重ねて来ていますが、ああすれば良かった、こうすれば良かった、と反省することも多々あります。子ども達一人ひとりを見ながら、一緒に感動できる先生でいたいと思います。

街ぶらり 藤枝市&島田市スポットぶらり

第10回「街ぶらり」は、藤枝市、島田市内のおすすめスポットを紹介します。

◆藤枝市陶芸センター

藤枝バイパス谷稲葉インターから瀬戸谷方面へ車で約15分ほどの、自然が豊かでホッとする場所にあります。

今回は初心者も楽しめる手ろくろコースで作陶しました。インストラクターの指導のもと、奮闘すること一時間ほどで、見事な晩酌用ビールカップ・灯りとりが出来上がりました。初めての体験でしたが楽しく作ることができました。仕上がるまでには一ヶ月半ほどかかるそうです。

あなたも挑戦してみませんか。要予約をお勧めします。体験後は近くの瀬戸谷温泉ゆらくで休憩もいいですね。

◆せとやコロッケ

山間部の瀬戸谷地域の特産、シイタケをたっぷり使った特製コロッケ。やっコロ（レストラン　せとやっこ）・ゆらコロ（瀬戸谷温泉　ゆらく）・コロ茶ん（大久保グラススキー場）の三種類があります。

今回はレストランせとやっこで、やっコロ（シンプルコロッケ）と釜飯をいただきました。地場産のじゃがいも・玉ねぎ・シイタケ・蒟蒻等、新鮮な野菜が使われた料理でした。釜飯は注文を受けてから一時間程かかります。予約できます。

◆蓮華寺池公園

山あいにあった沼地を周辺の村民が堤防と水門を築き、貴重な農業灌漑用水として利用した池です。

今では藤枝市花の藤をはじめ、桜、梅園、シャクナゲ、花菖蒲園、蓮等の花が咲き四季を通して自然の彩りを楽しめます。子どもたちが大好きなジャンボすべり台や古墳の広場、郷土博物館などの施設も充実しています。

また、今年4月には、スポーツと健康づくりに特化した子育て支援施設「れんげじスマイルホール」がオープンしました。子どもの安全なあそび場として、さらに子どもを中心としたさまざまな世代の人たちが交流する場として設置されました。プレイゾーンの利用は無料ですが、利用時間・休場日などにつきましては、れんげじスマイルホール「キッズパーク」ホームページでご確認ください。

散歩のあとは、公園内のスターバックスでティータイムをどうぞ。

◆蓬　莱　橋

～英国ギネス社認定　世界最長の木造歩道橋～

大井川に架かる全長897.4m、通行幅2.4m。平成9年にギネス社に認定され、長い木＝長生きの橋、全長897.4m＝厄無しのごろ合わせで縁起のいい橋として人気があります。

増水のたびに被害を受けてきたので、昭和40年4月にコンクリートの橋脚に替え今の姿になりました。

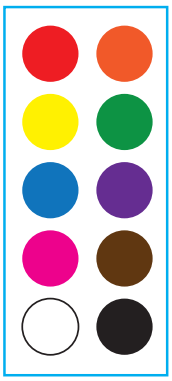
名前の由来は、明治3年4月に静岡藩主となった徳川亀千代がこの地を訪れ、「農は里の宝　向こうの山は宝の山。みなで力をあわせ宝の山を切り開けよ」と仰せになった。その後開墾が進み、明治12年1月に橋が架けられました。橋の名称は藩主の言葉から命名されたと言われています。今でも対岸の茶園を管理するために、農道として利用されています。よく晴れた日は美しい富士山が望め、数少ない賃取り橋として有名です。

みなさんのおすすめの場所やお店があったら広報委員までお知らせください

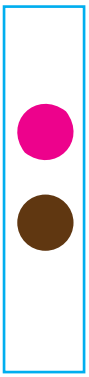
色彩から学ぶ（その4）

NPO法人 色彩心理診断士協会 COMPAS 代表理事
一級建築士　**栗山　恵**

毎回2色ずつその色の持つ心理的側面を解説しています。10色の色が出そろった時、選んだ色をメモしておくことで貴方の心が変化している事を実感していただけると思います。単純な色の選択ですので、必ずしもその色の意味が今の心の状態を全て表現しているとまでは言い切れませんが、まずは読んでいただいた方が、色で心の状態がある程度解る・・・ということをご理解いただければ幸いです。



Q1　10色の中から気になる色を1色選んでください。答（　　）



Q2　ピンクと茶の2色のうち気になる色はどちらですか？答（　　）

厚生労働省がH24年度にまとめた人口動態統計によると、10歳から14歳の死亡原因の第3位自殺、15歳から19歳の第2位自殺、20歳から39歳までの若者に至っては、死因の第1位が自殺となっています。若年層の自殺の原因は就職や進路に関するものが多いという報告が上がっています。また静岡県の不登校児童生徒（小学生＋中学生）の数が１００人に約3人の割合だということをご存知でしたか？（H25静岡県調べ）これは全国でワースト13位に当たります。H25年内閣府発表の若者白書では不登校の原因の上位4つに①不安などの情緒的混乱②無気力③親子関係④友人関係が上がっています。静岡県教育委員会の調べによる不登校のきっかけもやはり①漠然とした不安と無気力等本人に係る状況55％②学校に係る状況27％③家庭に係る状況13％と続いています。

ここで重要なことは家庭に係る状況が13％もあるという点です。本来子どもの安心安全基地でなくてはならない家庭において不登校のきっかけが作られている点です。

静岡県ではH26年度から家庭教育支援条例を制定して、家庭教育支援員の育成に力を入れ始めました。教育現場だけでなく家庭との連携を図りながら、行政や地域団体が一緒になって子どもを守るためにサポート体制を強化していく取組です。（家庭教育委員の実際の活動や運営は市町に委ねられています）これから分るように、子どもや若者の生きる力を育み見守っていくことは急務です。

ところで、先日保育園の園長先生とお話しする機会を頂きました。何でも年長児のクラスが学級崩壊だというのです。学級崩壊というのは大げさだと思われますが、家庭でのしつけやスキンシップや甘えが十分でなく保育士が母親役をしなくてはならない状態ということでした。その人数が一人二人ではないので、クラス全体がまとまらない状態にあるというのです。

私は幼児教育・保育の専門家ではないので、上記のような状況の原因を特定することはできませんが、昨今問題になっている家庭での愛着形成がきちんと出来ているかどうか？ということが気にかかりました。親御さんも仕事が忙しく、子どもと十分に関わる機会が持てず、また普段の園での様子を参観できないため、家庭での子どもの様子と園での様子の違いを理解できないケースが多いとの事です。誰でも目の前で起きていることは理解できますが、そうでないことは受け入れられないものです。ビデオを見せて理解してもらったという話も別の園で伺いました。

そこでＣＯＭＰＡＳでは3年前から保育施設と協力して子どもたちにぬり絵を実施して、無意識に選んだ色彩を確認しながら、その子らしさを見つめる活動をしています。これにより、園と保育士と家庭が一体となり子どもをサポートしていくことがねらいです。

私共は、色彩からわかることをお伝えし、園や保育士さんは、日頃の園生活からわかること、気に掛かることをテーブルに出し合います。無意識に選んで塗った色彩から園児一人ひとりの見えなかった部分に光をあてていきます。それをもとに一人ひとりの教育プログラムとして活用していただき、小学校に上がる前にもう一度色塗りを行い、どのくらいの成長があったかの確認を行います。そして、状況を踏まえたうえで担任と親御さんとの面談に利用していただいています。実施にはご家庭にもご理解とご協力を頂いて行っています。次回は、ここで行うぬり絵がどんなものなのか実例をもとにお伝えしていきたいと思います。

今号はピンクと茶色の解説です。ピンクは赤に白を混ぜると作れます。ベビーピンクから赤紫に近いマゼンタでは、ずい分意味が変わってきます。基本的にピンクは愛情、母性、優しさ、女性らしさ、少女らしさ、家庭的、恋愛、初恋、初々しさを表現していますが、赤紫に近い色になるしたがって、情、情念といった想いの深さを表現したりします。子どもがピンクを使うときは母との繋がりやスキンシップを求めている事が考えられます。

茶色はオレンジに黒を混ぜて作られます。基本的にオレンジに比べて冷静、落ち着きが増すことになります。真面目で安定を望み、実用的なことを求めていたりします。とても我慢強くて頑張り屋さんの一面もありますが、行き過ぎると頑固で融通が利かないと取られることもあります。細かいことにこだわったり、虐げられた不公平な扱いを受けていたという想いを感じている方もいるかもしれません。変化は苦手ですが、決めたら堅実にトコトン行動できる要素を持っています。

（参考資料）
野村順一著「色の不思議」NPO法人色彩心理診断士協会
ＣＯＭＰＡＳ色彩心理診断士養成講座テキスト

静私幼だより
NO.178
2016.12.15

ナイスショット

楽しい秋の遠足にお出かけ!!

おいしいおにぎりだーいすき♥うふっ

捕ったどー!

運動会でカッコいい姿を見せるぞ!

皆で力をあわせてがんばるぞー!!

大根 掘ったど〜

落花生とれました!

二人はなかよし

収穫
いっぱい
うれしいな♪

おっきい おいも!

こいもがとれたー♥

【編集後記】　にょっぽりと秋の空なる富士の山（鬼貫）

二学期が始まってさわやかな秋空も富士の山も御無沙汰です。でも自然には身を任せるしかありません。休日に農作業をしたり、園庭や畑の手入れをしていると秋の虫たちに出会います。予測不能な自然の中に生きる小さな生命は、その日その時を精一杯に生きているように見えます。あれこれ都合を並べるのは人間だけかもしれません。

原稿を書いたり、編集作業をしていると、改めて文字のもつ見えざる力を感じます。

広報副委員長 / 上野幼稚園　吉野友勝

（表紙写真／静岡平和幼稚園）

発行人／千葉　一道
編集人／後藤　正章
広報委員会

発行所／(一社)静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL.054(254)6820・FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷／(株)三創　レイアウト・イラスト／村松麗子

このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。